

災害から身を守るために

vol.2

「いざ」という時に…地震編(PART1)



シリーズ第二回目となる今回は、

「いざ」という時に…地震編」と題して、地震が発生した際の心構えや行動についてお知らせします。

地震が発生したとき、被害を最小限におさえるには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をすることが極めて重要です。

そのためには、皆さんが地震について関心を持ち、いざというときに落ち着いて行動できるよう、日ごろから地震の際の正しい心構えを身につけておくことが大切です。

ここでは「最低限なにをすればよいのか」について、地震発生時における心構えや行動について、主なことをまとめています。

1 わが身と家族の身の安全を

①机やテーブルに身をかくす

- 揺れを感じたら、丈夫な机やテーブルの下に身をかくす。



②非常脱出口の確保を

- 玄関の扉を開け非常脱出口を確保する。また、閉じこめられた時の脱出方法を日頃から考えておく。

③あわてて外に飛び出さな

- 大揺れは一分程度でおさまるので、落下物・転倒物など、周囲の状況をよく確かめ、あわてて外へ飛び出さずに落ち着いて行動する。

2 火災を防ぐ

①グラツときたら、火の始末

- 使用中のガス器具、ストーブなどは、すばやく火を消す。
- ガス器具は元栓を締め、電気器具は電源プラグを抜く。
- 地震後に避難する際は、ブレーカーを切ってから避難する。



②火が出たら先ず消火

- 家族はもちろん、隣近所と協力しあって初期消火に努める。

あなたを守るための行動は…

日ごろから地震に自信を持ちましょう

3 戸外では頭を保護し、危険なものから身を避ける

- 狭い路地や塀ぎわでは、ブロック塀や門柱、石垣などから遠ざかる。
- ビルのそばでは、窓ガラス・看板の落下などに注意する。
- 近くに丈夫なビルや広場があるときは、一時的にそこに避難する。
- 崖や川べりなどの崩れ、垂れ下がった電線などにも注意する。

4 避難のテクニック

①避難はできるだけ徒歩で、持ち物は最小限に

- 必要に迫られない限り、自動車ではなく、徒歩で避難する。(道路は緊急車両用に空ける)
- 携帯品は、必要品のみ。
- 山崩れ、がけ崩れに注意する。



5 正しい情報の入手を(デマで動くな、正しい情報で行動を!)

- ラジオなどで正しい情報を把握し、デマにまどわされない。
- 市、消防署、警察などからの情報には、たえず注意する。
- 電話は緊急時のみ使用する。
- 無責任な人の噂、不明確な情報によって行動しない。また、自ら不確かな情報や憶測を他人に流さない。



7 自動車の運転中には

- 交差点や危険な建造物を避け、道路の路肩に停車する。
- カーラジオの情報に注意する。
- 地震中は車内が安全なので、外に避難するかどうか状況を見てから行動する。
- 避難するときは、キーをつけ、ドアロックしない。



次回「いざ」という時に
：地震編(PART2)と題して、我が家における日頃からの心構えなどについてお知らせします。

問合せ先
市総務課防災交通安全係
(22) 6600 内線221